

世界結核デーにあたって

私たち皆が新型コロナウイルス(COVID-19)の脅威に直面している今、人々を感染症から守るために力を尽くしている世界中の人々に深く感謝いたします。

世界結核デーである本日、私たちの世界に大きな影響を与える深刻な病気「結核」に罹患したすべての人々、その家族、そしてコミュニティのことを、皆さまとともに考えております。

誰しも、空気感染する疾病である結核から逃れることができません。結核をなくすために、私たちは力を合わせなければなりません。

私は、2018年にオランダのハーグで開催された、国際結核・肺疾患予防連合の「肺の健康世界会議」に出席し、結核から回復した人々の言葉に心を動かされました。彼らは、偏見を耐え忍んだことを含む辛い経験を語ってくれました。もし、結核への罹患を防ぐことができていたならば、彼らはそのような大変な苦しみに苛まれずにすんだことでしょう。

結核は、予防ができ治療ができる病気です。

次の世代が結核による悲痛な経験を味わうことのないよう、世界中の多くの人々が多大な努力をしてきました。このような献身的な働きに、深く敬意を表します。

しかし、まだすべきことがあります。

世界保健機関は、結核の現状と結核対策が十分でない点について、発表しています。例えば2018年には、世界で約1千万人が新たに結核を発病したとしています。そして、結核に罹った家族に接触したため予防的治療の対象となるべき子どもが多くいましたが、5歳未満のそうした子どものうち、実際に予防的治療を受けられたのは、4人に1人しかいなかったと推定されています。

私たちは、より幅広い理解と支援によって、更に努力をしなければなりません。

かつて日本では、結核が著しくまん延していました。しかし、BCG接種に加え特効薬の発達、よりよい診断技術による集団検診の普及、多くの組織や人々の協力、そして、誰でも結核の治療を受けることを可能にした法律のおかげで、結核は大幅に減少しました。

こうした対策には、結核予防に取り組む婦人会も貢献してきました。今年の結核予防関係婦人団体中央講習会に全国から集まった参加者は、結核をはじめとする健康の課題についての啓発や健診の促進などが、自分たちの大切な活動であると語っていました。また、世界に向けたこのメッセージにおいて、結核に関する正しい情報の普及や、必要な予防接種の十分な実施などにふれるべきであると提案してくださいました。

より多くの人々が結核についての正しい知識を持ち、結核をなくすための対策を支援することによって、結核に対しての偏見や差別をなくし、世界中の結核による影響を急速に減らすことができるでしょう。

どのような立場であるかにかかわらず、結核やその他の感染症をなくすことは、世界の人々がともに目指す目標です。私は、結核対策に携わって努力するすべての人々と心を共にし、国際結核・肺疾患予防連合と協力して啓発に取り組み続けていきたいと思えます。

秋篠宮皇嗣妃殿下は、国際結核・肺疾患予防連合の名誉会員です。1994年から結核予防会の総裁を務められています。